



### 第3回

## 豊原寺・豊原三千坊史料館

(福井県坂井市丸岡町豊原・丸岡町田屋 77-44)

鳥越一向一揆歴史館友の会／北陸城郭プロジェクト 塩谷忠士

友の会の世話人をしております塩谷です。今回は今年7月の県外視察研修で訪れました豊原三千坊史料館と個人的に訪れた豊原寺をあわせて紹介します。豊原寺は特定の寺院を指す名称ではなく、坂井平野を東方から流れる五味川沿いの山間部にあった寺院僧坊群の総称です。中世に吉谷千坊、小野千坊、豊原千坊を合わせて「豊原三千坊」と称されました。白山豊原寺縁起によると、大宝2年(702)に泰澄大師が山の麓から紫雲の中に天女を感得して白山を勧請し、薬師如来を祀ったのを始まりとします。平泉寺や大谷寺と並び白山信仰の拠点として栄え、南北朝期には豊原寺衆徒が平泉寺衆徒とともに南朝方に味方したとして太平記に登場します。



豊原三千坊史料館 (事前予約制)

歴史上の豊原寺は越前の支配者に従う動向が多く残され、戦国期当初は一守護代にすぎなかった朝倉氏に平泉寺とともに敵対していたものの、朝倉氏が越前をほぼ掌握すると文明13年(1481)頃までには朝倉氏に従い、永正3年(1560)一向一揆の大軍と争った九頭竜川の戦いでは朝倉氏に味方しました。天正元年(1573)に朝倉氏が織田氏に滅ぼされると、越前に勢力を広げていた一向一揆に味方する寺坊が大勢を占め、かつての白山信仰の有力拠点は越前一向一揆(一向宗門徒)が籠る拠点となり、長年共闘関係にあった平泉寺をも一向一揆とともに攻めました。同3年、織田氏が越前に再出陣すると一向一揆の城砦は次々と落城し、豊原寺も攻められて焼亡しました。織田家臣の柴田勝家の養子勝豊に任された豊原は、翌年丸岡へ城を移すにあたり多くの寺坊が従いました。近世の豊原寺に残った華蔵院は明治の神仏分離で白山豊原寺と白山神社に分かれた直後に寺は焼けて廃寺になったようです。豊原の住民は昭和の三八豪雪の被害で皆下山して廃村となり、遂に豊原の人の営みに幕が下りました。

豊原三千坊史料館は豊原の寺宝等を長年管理してきた家の豊原春雄氏による私設史料館で、今年5月に福井県指定文化財に格上げになった木造薬師如来坐像(平安後期作・講堂本尊)や木造阿弥陀如来坐像(坂井市指定)、白山豊原寺縁起など豊原寺ゆかりの文化遺産を多く収蔵しています。2階には平成11年に設立された「豊原寺史跡保存会」の故北川氏が寄贈した蔵書が壁一面に並び、豊原寺を後世に継承したいという関係者の熱意を感じる場所でした。荒れていた豊原寺跡は同保存会や平成19年に発足した「のうねの郷づくり推進協議会」により整備が続けられ、散策できるように今では案内板も所々に建てられています。かつての豊原寺の賑わいを想像しながら史跡を散策してみたいかがでしょう。

参考資料  
「越前豊原」  
創刊号～第3号

豊原三千坊史料館パンフレット  
他



開伽井 (開山由来の霊泉)



旧白山神社境内の石仏群